

## ご 挨拶

第2回日本動機づけ面接協会年次大会及びワークショップの開催にあたって

大会長 山 田 英 治 (千葉家庭裁判所)

開催にあたり、ご挨拶申し上げます。

今回の大会とワークショップに通底するテーマは「実践と訓練の質の向上と普及」です。

動機づけ面接は、実践と研究を積み重ね、人と人の有機的なつながりや協働的なプロセスを通じて、進化し続けている実証に基づく面接法です。

今や欧米を中心に200以上の実証研究が行われています。

一方で、収集した研究データは、動機づけ面接に基づいたものかという忠実性の評価も課題になっています。

今後、日本の臨床場面での実践と実証による研究の積み重ねを行うためにも、実践の質を改善、向上するトレーニングと評価は、不可分の関係にあります。動機づけ面接に関心を持ち、実践しようとする方々が動機づけ面接を「身につける」ことによって、日本の動機づけ面接の実践と研究の質が向上します。

本大会では、「動機づけ面接を身につける」とはどういうことなのか、何を、どのように、どのくらいすればよいのかといったことに焦点を当てたプログラムにしています。

基調講演では、トレーナーのバイブルとも言われる “**Building Motivational Interviewing Skills – A Practitioner Workbook** (邦訳「動機づけ面接を身につける」)” の著者であるRosengren先生から、面接者が感じ、考えていることがクライアントの変化にどのように影響を与えるのかについてお話しいたします。

一般演題では、限られた時間でできるだけ多くの方に口頭発表いただくようにしています。シンポジウムでは、「動機づけ面接を身につける」ことをテーマに、現在、動機づけ面接の普及に努めている方々からどのように動機づけ面接を身につけていったのか、どのようにトレーニングをしていけばよいとお考えなのかについてお話しいたし、意見交換します。

また、Rosengren先生による2日間のワークショップを予定しています。動機づけ面接第3版に導入された4つのプロセスに沿った構成になっています。講義、討議、エクササイズを通じて、動機づけ面接の4つのプロセスを理解、体感し、総合的にトレーニングできる内容になっています。

本大会とワークショップが、動機づけ面接を対人援助に活かしたいと希望される方々にとって有機的につながるコミュニケーションの場になり、更に実践の質の向上と動機づけ面接の普及につながることを祈念しています。

積極的なチャレンジと活発な議論が展開することを期待しています。

# 大会日程

	開会・ご挨拶	一般演題タイムテーブル	シンポジウムタイムテーブル
13:00	<p>山田 英治 (千葉家庭裁判所)</p> <p>「動機づけ面接の普及と質の向上」</p>	<p>14:30 金築優1) 金築智美2) 1)帝京平成大学大学院 2)東京電機大学</p> <p>「動機づけ面接における両価性に関する知覚制御理論的考察」</p>	<p>16:30 企画紹介</p>
13:15	<p>David B. Rosengren, Ph.D. (2steps forward training)</p> <p>「クライアントの変化において我々が感じ、信じていることは大切なのか」</p>	<p>14:45 松尾邦功 一宮温泉病院・ゆるーい思春期ネットワーク</p> <p>「MIの抽象的イメージ図と学習意欲に関する考察」</p>	<p>16:35 原井宏明 なごやメンタルクリニック</p> <p>「アルコール患者に直面化をやっていた精神科医の大転換」</p>
14:20		<p>15:00 境 泉洋 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 基礎科学研究部門 人間科学分野 人文科学研究科</p> <p>「Community Reinforcement and Family Training(コミュニティ強化と家族訓練: CRAFT)」</p>	<p>16:50 磯村毅 ゆるーい思春期ネットワーク</p> <p>「必要に迫られて・・・ —学習者の個人的な体験より」</p>
	終了後、10分休憩	<p>15:15 岡嶋美代 なごやメンタルクリニック</p> <p>「他者への共感を苦手とする相談者に対するコミュニケーション訓練 —動機づけ面接の応用—」</p>	<p>17:05 倉本剛史 荅北クリニック院長</p> <p>「熊本県天草地域における動機づけ面接WSの経緯とこれから ～自分たちで学ぶ力をつけていくには～」</p>
		<p>15:30 大坪陽子 東京大学医学系研究科 公共健康医学専攻修士課程</p> <p>「動機づけ面接法を評価する尺度: 開発と利用の動向」</p>	<p>17:20 シンポジストの発表へのフロアからの質疑・応答</p>
		<p>15:45 鬼澤重光1), 3)、瀬在泉2), 3) 1) イムス板橋リハビリテーション病院 2) 武蔵大学学生支援センター 3) しぶや動機づけ面接研究会</p> <p>「シリーズ化ワークショップの有益性と課題」</p>	<p>17:35 指定討論者 デイビッド・ローゼングレン博士から、シンポジストの発表に対するコメント</p>
		<p>16:00 瀬在泉 ほか</p> <p>「動機づけ面接(MI)ワークショップの副講師・ファシリテーター経験がMI学習経験者のMI学習に及ぼす影響」</p>	<p>17:50</p>
		<p>16:15</p>	<p>閉会の辞</p> <p>山田英治 (千葉家庭裁判所)</p>
			<p>18:00 終了</p>

一般演題終了後、15分休憩

## プログラム

- 13:00 開会挨拶 山田英治（千葉家庭裁判所）
- 13:15 基調講演 デイビット・ローゼングレン博士（予防医学・効果評価研究所）
- 14:20 ～休憩～
- 14:30 一般演題（発表12分，討議3分）  
座長 山田英治（千葉家庭裁判所）
- 14:30 動機づけ面接における両価性に関する知覚制御理論的考察  
金築 優<sup>1)</sup> 金築 智美<sup>2)</sup>  
1) 帝京平成大学大学院  
2) 東京電機大学
- 14:45 MIの抽象的イメージ図と学習意欲に関する考察  
松尾邦功 / 一宮温泉病院・ゆるーい思春期ネットワーク
- 15:00 Community Reinforcement and Family Training（コミュニティ強化と家族訓練：CRAFT）  
境 泉洋 / 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部  
基礎科学研究部門 人間科学分野人文科学研究科
- 15:15 他者への共感を苦手とする相談者に対するコミュニケーション訓練  
—動機づけ面接の応用—  
岡嶋美代 / 医療法人和楽会なごやメンタルクリニック
- 15:30 動機づけ面接を評価する尺度：開発と利用の動向  
大坪陽子 / 東京大学医学系研究科公共健康医学専攻修士課程
- 15:45 シリーズ化ワークショップの有益性と課題  
鬼澤重光<sup>1), 3)</sup>, 瀬在泉<sup>2), 3)</sup>  
1) イムス板橋リハビリテーション病院  
2) 武蔵大学学生支援センター  
3) しぶや動機づけ面接研究会

- 16:00 動機づけ面接（MI）ワークショップの副講師・ファシリテーター経験が  
MI 学習経験者のMI 学習に及ぼす影響  
瀬在 泉<sup>1), 8)</sup>, 西條亜利子<sup>2), 8)</sup>, 高山重光<sup>3), 8)</sup>, 橋本壘<sup>4), 5), 8)</sup>, 村田千里<sup>6), 8)</sup>,  
鬼澤重光<sup>7), 8)</sup>  
1) 武蔵大学学生支援センター  
2) 東京女子医科大学東医療センター内科  
3) 管工業健康保険組合健康管理センター  
4) 早稲田大学大学院人間科学研究科  
5) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 社会精神保健研究部  
6) 東京都済生会中央病院 糖尿病・内分泌科  
7) 東京女子医科大学附属青山病院  
8) しずや動機づけ面接研究会
- 16:15 ～休憩～
- 16:30 シンポジウム「動機づけ面接（MI）を身につけるために必要だったことは？」  
【企画・司会】岡嶋美代（医療法人和楽会なごやメンタルクリニック）
- 16:35 アルコール患者に直面化をやっていた精神科医の大転換  
原井宏明 /医療法人和楽会なごやメンタルクリニック
- 16:50 必要に迫られて・・・一学習者の個人的な体験より  
磯村 毅 /ゆるーい思春期ネットワーク
- 17:05 熊本県天草地域における動機づけ面接 WS の経緯とこれから  
～自分たちで学ぶ力をつけていくには～  
倉本剛史 /苓北クリニック
- 17:20 質疑・応答
- 17:35 指定討論 デイビッド・ローゼングレン
- 17:50 閉会の辞 山田英治（千葉家庭裁判所）
- 18:00 終了

## 基調講演

クライアントの変化において、私達が感じ、信じていることは大切なのだろうか？

David B. Rosengren

(2 Steps Forward Training, Prevention Research Institute)

対人援助職の役割の1つは、クライアント自身が変わる事ができるという信念や希望を持たせることである。動機づけ面接は、クライアントの「やればできる」という態度を強める手助けをする。

基調講演では、クライアントを支援するときの面接者の前向きで楽観的な感情（ポジティブティ）がもたらす潜在的な効果について触れる。また、概念を再確認すると同時に実践家のために実際の応用についても触れる。

## Does what we feel and believe matter in client change?

David B. Rosengren

(2 Steps Forward Training, Prevention Research Institute)

One of the key roles of Practitioners would enhance clients' sense of positivity for their change.

The focus is in the plenary is on the potential effects of positive emotions on our care of clients. This presentation will combine a review of concepts with some practical applications for practitioners.

## 一般演題

### 動機づけ面接における両価性に関する知覚制御理論的考察

金築 優<sup>1)</sup> 金築 智美<sup>2)</sup>

1) 帝京平成大学大学院

2) 東京電機大学

動機づけ面接第三版 (MI; Miller & Rollnick, 2013) の定義では、「両価性を探る」という表現が削除された。両価性を探ることが、必ずしも変化につながらないというエビデンス (e.g., Carey et al., 2006) を考慮したためである (Miller & Rose, in press)。発表者らは、この動向に両価性を感じる。定義が明確になった一方、両価性を探ることの意味を理論的に考察することが、MI の効果機序の解明に役立つと考えるからである。発表者らは、知覚制御理論 (Perceptual Control Theory: PCT; Powers, 1973/2005) の観点から MI の理論的基盤を考察しているが (金築・金築, 2013)、PCT では、問題となる両価性は、葛藤によって生じると考える。本演題では、PCT における葛藤の性質と解消のメカニズムを紹介し、MI における両価性の捉え方への示唆を考察する。

### MI の抽象的イメージ図と学習意欲に関する考察

松尾邦功

一宮温泉病院, ゆるーい思春期ネットワーク

【背景】山梨県では 2013 年より MI のワークショップ (WS) を 2 系統 (以下 WS-A, WS-B) で 2~3 時間ずつ、それぞれ 4 回と 5 回行ってきた。短時間での WS において、参加者の学習意欲の継続を支持する方法のひとつとして、山梨県での WS の現状の報告と、WS 中に抽象的イメージ図をロードマップ的に用いた方法について考察する。

【方法】アンケート用紙を用いて、「次の学習会を開催するまでの期間はどれくらい先が良いですか?」という設問を行い、選択肢として「なるべく早く」「一ヶ月後」「二ヶ月後」「三ヶ月後」「半年後」を設けた。WS 中に抽象的イメージ図を使用したか否かで回答に変化があるかを検証した。

【結果】

イメージ図を使用する前後で、「なるべく早く」「一ヶ月後」と回答した率が WS-A では 18.8% から 63.7% へ、WS-B では 69.2% から 88.9% へ増加した。

## Community Reinforcement and Family Training (コミュニティ強化と家族訓練：CRAFT)

境 泉洋

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 基礎科学研究部門 人間科学分野

本発表では、Community Reinforcement and Family Training (コミュニティ強化と家族訓練：CRAFT) をひきこもり状態にある人の家族に対して実施した経過について報告する。CRAFT では、家族を介してひきこもり当事者の治療動機づけを高めることを目指すが、そのプロセスについて行動理論の観点から考察を加える。特に、動機づけ面接で明示されている変化への動機づけを示す言動に焦点をあて、家族のどのような働きかけが、ひきこもり当事者の変化への動機づけにつながっているのかについて検討する。

## 他者への共感を苦手とする相談者に対するコミュニケーション訓練 —動機づけ面接の応用—

岡嶋美代

医療法人和楽会なごやメンタルクリニック

動機づけ面接はその名称ゆえに何らかの悪癖を行動変容へ向かわせるためのツールと思われがちである。技法発展の経緯からも依存症の臨床研究によりまとめられた面接法であることは確かである。言語分析に基づき対話の仕組みを明らかにして、相手から目的の反応を引き出せるような技能を特定している。それを身につけるための体験的なエクササイズを用意している点、他では曖昧なままになっている共感を技術として捉え、教えることができる点で、動機づけ面接は他のカウンセリング技法と一線を画している。

発表者は、他者への共感を苦手とするいわゆるアスペルガー傾向（自閉症スペクトラム）の相談者やこだわりの強い相談者に対して、動機づけ面接を、夫婦間・親子間のコミュニケーション訓練として教示している。喧嘩になったり話が途切れてしまう場面の会話を再現してもらい、それを動機づけ面接のスタイルに書き換えて見せる面接内での取組と宿題の出し方やその後の変化などを報告する。

## 動機づけ面接を評価する尺度：開発と利用の動向

大坪陽子

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻修士課程

**【背景】** 動機づけ面接の実践を客観的に評価・記述する必要性が増しており、標準化された尺度の開発が海外で進んでいる。評価の目的と尺度の特色に応じて指標を使い分けることで多面的な評価が可能になる。本邦での利用を視野にそれぞれの尺度の特色を整理する必要があるが現状では行われていない。

**【目的】** 国内既知の MITI に加え、日本語でまだ紹介されていない各尺度の特色を記述する。

**【方法】** 文献レビューを行い、動機づけ面接評価のための指標について信頼性/妥当性/実践可能性を比較した。

**【結果】** 個々の実践家の評価を行う指標・集団ワークショップ評価の補助指標合わせて6つが抽出された。評価のアプローチはセラピスト側の行動や態度、クライアントの受け止め方などさまざまであった。

**【結論】** 動機づけ面接の多面的な評価のために本邦での検証が待たれる。

## シリーズ化ワークショップの有益性と課題

鬼澤重光<sup>1), 3)</sup>, 瀬在 泉<sup>2), 3)</sup>

1) イムス板橋リハビリテーション病院

2) 武蔵大学学生支援センター

3) しぶや動機づけ面接研究会

**【背景】** 動機づけ面接 (MI) の精神と基礎技法を網羅して教えるには2～3日間ワークショップ (WS) を行うのが標準的である。一方私どもは標準的 WS で扱う内容を2時間、全9回に分割してシリーズ化 WS を開催した。

**【目的】** 昨年東京都渋谷区で行ったシリーズ化 WS の有益性と課題を検討した。

**【方法】** 1. 受付の記録から WS 各回の受講者数と初受講者数を検討した。2. 最終回に総合演習としてリアルプレイを小グループで行った。この MITI コーディングとアンケートから、受講者がシリーズ化 WS で習得した MI 技能を検討した。

**【結果】** 1. 受講者は  $29.4 \pm 4.5$  名 (平均±標準偏差) であった。第8回を除く毎回で  $3.5 \pm 3.1$  名の初受講者を認めた。2. 25名 (男性8名 女性17名 受講平均6.7回) の受講者から MITI の行動カウントが提供された。検討内容の詳細および**【結論】****【考察】** は本編で公開する。



## 動機づけ面接（MI）ワークショップの副講師・ファシリテーター経験がMI学習経験者のMI学習に及ぼす影響

瀬在 泉<sup>1), 8)</sup>, 西條亜利子<sup>2), 8)</sup>, 高山重光<sup>3), 8)</sup>, 橋本塁<sup>4), 5), 8)</sup>, 村田千里<sup>6), 8)</sup>, 鬼澤重光<sup>7), 8)</sup>

- 1) 武蔵大学学生支援センター
- 2) 東京女子医科大学東医療センター内科
- 3) 管工業健康保険組合健康管理センター
- 4) 早稲田大学大学院人間科学研究科
- 5) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 社会精神保健研究部
- 6) 東京都済生会中央病院 糖尿病・内分泌科
- 7) 東京女子医科大学付属青山病院
- 8) しぶや動機づけ面接研究会

【背景】動機づけ面接（MI）の普及に伴い、今後、MI学習経験者の継続的な学習方法及びワークショップ（WS）において果たす役割が課題になると考える。

【目的】MI学習経験者のWSにおける副講師やファシリテーター（FT）経験がMI学習に及ぼす影響について考察する。

【方法】2013年1月から11月にかけて開催された全9回のMIWSの中で副講師やFTを経験した6人に対し、記名式のアンケートを行いその内容を検討した。

【結果】副講師経験はMI学習の重要度が全員上昇し、4人の自信度が上昇、全員がMI学習の行動を起こした。また、FT経験はMI学習の重要度が5人上昇し、2人の自信度が上昇、全員がMI学習の行動を起こした。

【考察】MI学習経験者がWSの副講師やFTを経験することはMI学習の促進に繋がることと考えられる一方で、臨床でのMIスキル獲得とは異なる学習（トレーナー学習）を必要とすることも考えられた。

## シンポジウム

### 「動機づけ面接（MI）を身につけるために必要だったことは？」

MI のエクササイズ集であるローゼングレナ著「動機づけ面接を身につける」が出版された。この本の狙いは、ワークショップへの参加やコーチングを受ける機会がない人たちがどうやればMIを練習し、身につけることができるかを示すことにある。当然のことだが、MIは「読書百遍」しても身につかない。実際に相手を見つけて使ってみる練習が欠かせない。練習は学習者の段階と目的に合わせたものが必要だろう。そのような練習の仕方について、身近に指導者を持つことがなかった人たちがインターネットを通じたりして、どうやって学んだか、また学ぶべきだと考えているかを、このシンポジウムではそれぞれの学習の工夫を共有する。

#### <企画・司会> 岡嶋美代（医療法人和楽会なごやメンタルクリニック）

企画者である私自身は、身近にコーチがいてスーパーバイズを受けやすい恵まれた環境にあったといえる。一方でその価値に気づいていなければ、利用することもできない。新しい技術を学び、自分の臨床に取り入れていく過程は地道な一人一人の努力に委ねるところが大きい。伝統の職人芸のように、閉鎖的で伝達不能のままにするのではなく、先人たちの苦勞の軌跡を通して、後進たちが効率よく学べるようオープンにしてもらおうとこのシンポジウムを企画した。特別な才能を持っていたからMIが身についたということではなく、それぞれの演者の方々の初心者の頃の工夫について教えていただきたい。

#### <話題提供1> 原井宏明（医療法人和楽会なごやメンタルクリニック）

##### 「アルコール患者に直面化をやっていた精神科医の大転換」

私が日本におけるMIの先駆者になったのは嬉しいことである。MINT理事にもなり、世界的な視点からMIの普及を考える立場になった。しかし、そのことだけに注目しても人の役には立たない。

私には先駆者を目指したつもりは全くなかった。EBMに従う精神科医・行動療法家であるつもりで私が、肥前療養所から離れ、KATS(菊池アディクショントリートメントサービス)を始めることになった。そこでProject MATCHと出会い、Bill MillerとMINTに導かれ、今のようになった。MIをこれから学ぼうとする人たちがどのようにすれば良いのか、自分自身の経験を振り返り、役立つと思われるエピソードと今後の課題についてお話ししたい。

## <話題提供 2> 磯村毅（ゆるーい思春期ネットワーク）

### 「必要に迫られて・・・一学習者の個人的な体験より」

「後進たちが効率よく学べるよう、演者の方々の初心者頃の工夫を」とのテーマである。MIに初めて出会った時、私は対人援助職にリセット禁煙（失樂園仮説を伝える心理教育）の研修を行っていた。喫煙者の心理教育に対する動機づけに苦勞していた私はMIの素晴らしさを直感し感動。無謀にもほとんどMI初学者の段階で、その感動を伝えようと研修の企画を立ててしまった。刻々と迫るセミナーの期日。伴わないスキル。あまり参考にならない気もするがその時の私の工夫をありのままお伝えしたい。

## <話題提供 3> 倉本剛史／苓北クリニック

### 「熊本県天草地域における動機づけ面接WSの経緯とこれから ～自分たちで学ぶ力をつけていくには～」

2011年12月、私は初めてMIの門を叩いた。医師になって何度も「患者の話聞くように」と上級医に指導されてきたが、「話の聴き方」に関して指導されることはなかった。禁煙外来においては、「知識をつければ人は変わる・変わる」という思いこみで、患者には知識の植え付けばかりをしている診療スタイルであった。禁煙外来の難しさを感じていた頃にMIを知った。それまでの自分の患者や周囲とのかかわり方を大きく見直す事となったMIの学習は目からウロコが落ちるものであった。そして、「この学びを自らの地域・職域に持ち帰り、そして共に学ぶ仲間を作りたい。」との気持ちから、未熟ながらも熊本の最西端・天草でワークショップを開催することを決意した。

今回、2012年1月から始めた天草地域における動機づけ面接WSの経緯の2年間を振り返り、そこで得られたもの、MIを応用した地域医療や地域連携への取り組み、WS開催の問題点と対応を考察し、地域で自分たちで学ぶ力をつけていくための、自己トレーニング、さらに今後の目標などをお話しし、これからの方向性について皆さんと考えていきたい。

## <指定討論>

デイビッド・ローゼンブレン（予防医学・効果評価研究所）